



山本有三文学碑（太平山謙信平にて）

『第3期栃木市教育計画』

景勝地として名高い太平山謙信平の一角に、栃木市出身の文豪山本有三（1887年～1974年）の功績を称えた文学碑があります。

昭和38年（1963年）3月からの約60年の間、ふるさとを見守る山本有三先生のお顔の隣には、先生の代表作である「路傍の石」の一節が刻まれています。

**「たったひとりしかない自分を、たった一度しかない一生を、
 ほんとうに生かさなかったら、人間、うまれてきたかいがないじゃないか」**

さて、栃木市教育委員会では令和5年3月に『第3期栃木市教育計画』を策定しました。この計画は、令和5年度から9年度までの5年間における本市教育の新たな基盤になるもので、「総論」には、基本理念とその具現化のための基本方針及び基本目標を定め、「各論」では、基本方針を実現するための、施策の方向性や単位施策を示しています。

先述した山本有三先生が遺された言葉は、その精神を含め、【生命尊重・人権尊重】の考えとして大切に継承し、教育計画の基本理念の根幹に据えています。

そして、これに加え、これからの時代への対応として、予測困難で多様化が進む社会の中でも生き生きと活躍できるための【生きる力・生き抜く力】【多様性・包摂性】と、ふるさとを大切に思い、将来まちづくりに進んで取り組むための【郷土愛】の4つのキーワードを基に次の基本理念を定めました。

『第3期栃木市教育計画』 基本理念

**希望に向かい 伸び伸びと個性を発揮し
 互いに認め合いながら より良い社会を築いていく
 ‘とちぎ愛’ に満ちた人を育てます**

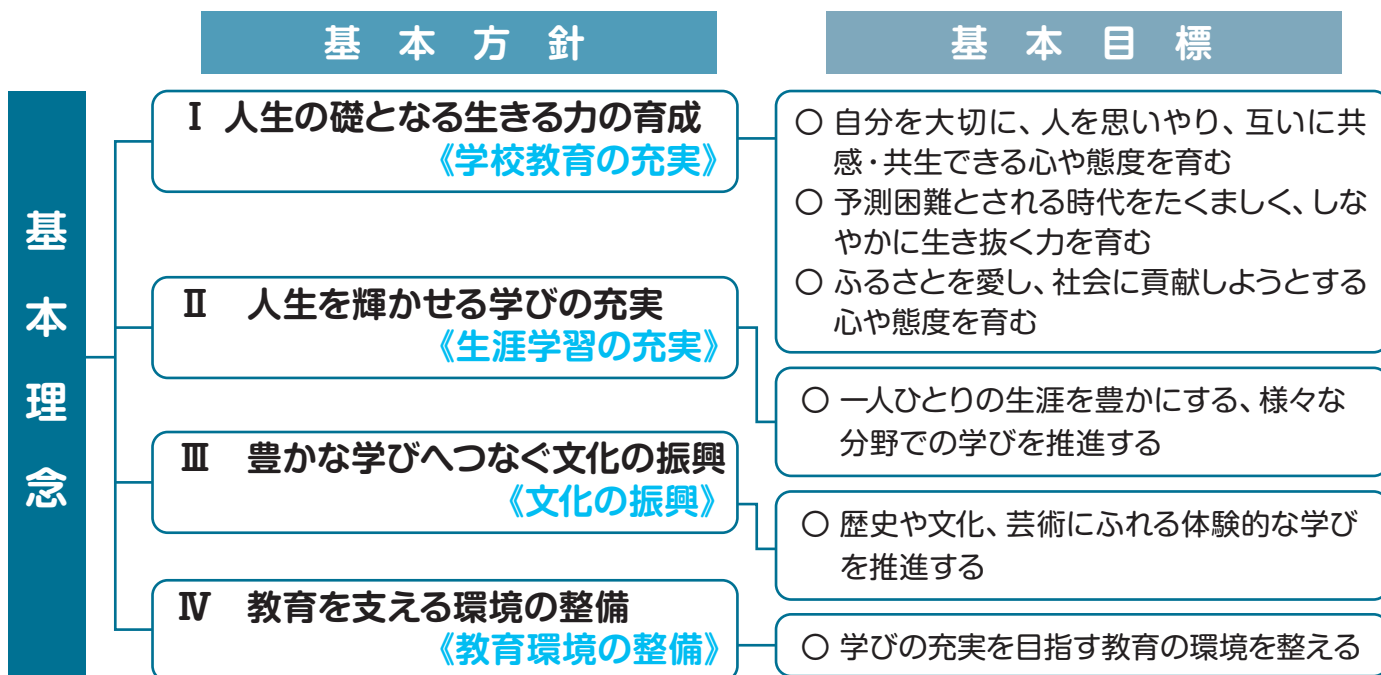


栃木市教育ニュース

今号の『栃木市教育ニュース』では、令和5年3月に策定した「第3期栃木市教育計画」の内容について、その特徴を市民の皆様にお知らせします。

◎基本理念と基本方針・基本目標

基本理念のもと4つの基本方針と6つの基本目標を定め、「とちぎ愛」に満ちた人づくりを進めてまいります。



◎施策を横断する3つの視点

基本理念に掲げた“人づくり”を推進するため、次の3つの視点で基本施策や単位施策を横断的に捉え、本市ならではの教育の振興を図ります。

視点1

生命・ひとを大切に作る人を育む



キーワード【生命尊重・人権尊重】

視点2

新しい時代をより良く生きる人を育む



キーワード【生きる力・生き抜く力】【多様性・包摂性】

視点3

ふるさを愛し、まちづくりを進める人を育む



キーワード【郷土愛】

『栃木市の教育に根づく山本有三の精神』

栃木市立美術館前に創立百五十年の歴史をもつ栃木市立栃木中央小学校(旧栃木第一小学校・栃木第二小学校)があります。文豪で知られる山本有三は、この小学校を卒業しました。本市で生まれ育ち、名誉市民第一号となった本市が誇る偉人です。戯曲・小説という文学者の他に教育者、政治家としても多くの業績を残しています。ところで、教育で最も大事にされなければならない事柄に「生命・人権の尊重」があります。山本有三の生き方や作品の根底にあるものは、まさに生命尊重の考えであり、人権尊重の教えです。本市では、彼の教えを真摯に生かし、精神を根づかせる実践を重ねています。「～たったひとりしかない自分を、たった一度しかない一生を～」の言葉に象徴されるように、生命を尊び、人権を尊重する彼の精神は、本市の教育を推進していく際の根幹になっています。栃木市は、古き良き伝統を継承しつつ、あらゆる分野で新しく生まれ変わろうとしている魅力ある地域です。本市の将来都市像である「豊かな自然と共生し 優しさと強さが調和した活力あふれる栃木市」を目指していく教育分野の指針として、「第3期栃木市教育計画」を位置づけています。

教育長職務代理者 後藤 正人



教育委員の活動日誌

教育委員は、本市の教育の充実のため、毎月の定例教育委員会をはじめ、様々な活動に積極的に取り組んでいます。今号の『教育委員の活動日誌』では、教育委員が市内小中学校を訪問した際の様子を紹介합니다。

ここ数年、コロナ禍の影響で、予定通り実施できなかった「教育委員学校訪問」を、今年は予定通り5つの小学校と3つの中学校で実施することができました。

何事にも元気に明るく取り組む子どもたちの笑顔は、栃木市の宝です。訪問先の学校では子どもたちの元気な姿を見ることができました。

教育委員学校訪問



訪問した学校

栃木第四小・寺尾中・南小・吹上中
藤岡中・大平南小・千塚小・静和小

教育委員からのメッセージ

最近では、一人一台のPCを先生や子ども達が活用していることが増え、同じ勉強がより楽しく、効率よく理解できるのでは、と感じます。英語教育にも変化があり、学校教育の一つひとつが子ども達の未来の生きる力に繋がれることを願いながら参観しています。

教育委員 大橋 孝子

私たち教育委員の役割は、学校に<ビハインド・ユー>。学校に「寄り添っています」「応援しています」。裏側において、環境と方向性を整える。それには校内情報の取得も大切で、時々児童の肩越しにノートを覗いては、フムフムして、それから帰って来てわさわさ話し合う。

教育委員 林 慶仁

ICTの活用で授業の様子が以前に比べ大きく変化していました。様々な発見があり、子どもたちの興味関心の幅が広がっていました。子どもたちにとって学校が「楽しい学びの場」であることを信じています。同時に学校以外の学びの場も大切だと思っています。

教育委員 舘野 知美

今回の訪問は、昨年藤岡一中と二中が統合し新しく生まれ変わった藤岡中学校でした。生徒たちが新しい学校に馴染んでいるか気になりましたが、校長先生の話では、1か月後には両校の生徒たちは問題なくお互い馴染んでいたようです。校章も校歌も新しくなりこれからがとても楽しみです。

教育委員 西脇 はるみ



栃木市版 運動部活動の地域移行



「部活動」が学校から地域へ

令和4年6月、国の有識者会議からスポーツ庁長官へ運動部活動の地域移行に関する提言書が手交されました。このことを皮切りに、国は令和5年度から7年度までの3年間で、「休日の部活動の運営主体を学校から地域へ移行する」という方針を打ち出しました。

第1回 検討会議の様子



これまでの「部活は学校で」という社会通念を大きく変える方針に、本市教育委員会としては現場の関係者と一緒に、課題や対応策等をしっかり検討していくための検討会を設置しました。

振り返ってみると、わが子の部活動に振り回されていたあの時が、親として一番充実していたのだとわかる。悩み、喜び、感動し…すごく楽しかった。部活動は子どもたちにとっても親にとっても大切なものだ。先生の負担を減らしつつ、子どもたちにはより充実した部活動を行ってほしい。私たち「部活バカ世代」の願いである。

教育委員 福島 鉄典

教育長通信 ~いのち、むきだし~

「いのち、むきだし。奄美大島！」 空港に降り立った私の目に、真っ先に飛び込んできた大きなメッセージボード。強いインパクトを放つこの言葉は、丸二日間の滞在期間中、一時も私の脳裏から離れることはありませんでした。

昨秋、栃木市ゆかりの孤高の日本画家田中一村が、69歳で終焉を迎えるまでの約20年間を過ごした奄美大島に足を運びました。田中一村記念美術館を含む鹿児島県奄美パーク開園20周年を祝う市長からの親書を、宮崎 緑館長に届けるためです。無事親書の謹呈を済ませた後は一村記念美術館を案内いただき、これまで写真や図録等で親しんできた一村の生の作品を目の当たりにして、言葉では尽くせない感動を覚えました。

中でも、私の心を捉えて離さなかった一枚の絵があります。その絵のタイトルは「榕樹に虎みづく」。一般にガジュマルと呼ばれる南国の樹木の枝に、トラミミヅクが正面を向いて留まっている絵です。奄美で描かれた一村の絵の多くが鮮やかな色彩であるのに対し、この絵は白黒のモノトーンに近い落ち着いた色調で、主役のトラミミヅクと背後に描かれた穏やかな海や空とがマッチし、えも言われぬ神秘性を放っていました。その絵について宮崎館長が話されたことが心に残りました。「美術評論家をはじめこの絵を見た方々から、構図がすばらしいとか、遠近感があつていい、といった言葉をよく耳にします。そんな中、島民の一人がこう仰ったのです。——このミミヅクは、よほど一村に気を許していたのですね。普通ミミヅクは、外敵に襲われる危険に備えて直ぐに飛び立てるよう両足で木に留まるものです。しかしこのミミヅクは片足で留まっているでしょう？ その真正面で一村がスケッチをしているのですよ。人間を前にしながら、すっかり安心しきっている証拠ですね ——と。」

奄美の人や自然に魅せられ、愛し、共生し、心血を注ぎ込んでその魅力を描き出した一村の姿が偲ばれ、熱いものがこみ上げてきました。その画家としての有り様こそ、「いのち、むきだし」そのものであったと。

来る4月15日～6月18日の期間、栃木市立美術館にて開館記念展「明日につなぐ物語」を開催いたします。およそ180点に及ぶ栃木市ゆかりの作家たちの作品の中に、奄美の田中一村記念美術館と千葉市美術館からお借りする「榕樹に虎みづく」「アダンの海辺」を含む一村の作品6点が並びます。

皆様お誘い合わせの上、是非、美術館に足をお運びください！

教育長 青木 千津子

【編集後記】

“教育委員会だより 絆” は市民の皆様にも、教育への関心を一層高めてもらうため、‘開かれた教育委員会’としての活動を「分かりやすく」「親しみやすく」紹介していきます。

※ご意見・ご感想は
こちらまでお寄せください。

栃木市教育委員会教育総務課 〒328-8686 栃木市万町9-25

電話：0282-21-2467 FAX：0282-21-2689 Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp